



YMCA NEWS

金沢青年

No.20 (2019年9月号)

発行所: 金沢キリスト教青年会 〒920-0998 金沢市里見町 44-1 里見タウンハイツ 201

TEL/FAX (076) 255-7782

<http://sophiruka.sakura.ne.jp/kanazawaymca/index.html>

2019年度金沢 YMCA 定期会員総会と今後の展望

金沢 YMCA 理事長 朝倉 秀之

「森林浴」という概念を定義したのは日本人だということをご存知でしょうか。1982年当時の林野庁長官が考えて、世界中に広がったそうです。その可能性をさらに広げた女性の話が朝日新聞(9月14日付け)に載っていました。「森と未来」という一般社団法人を立ちあげた経緯が書かれていました。なぜこの記事が気になったのかというと、いつも金沢 YMCA(金沢基督教青年会)の活動をどうしたらもっと魅力的になるのかを考えていたからです。魅力を知らせるという意味でも、今回、『YMCA NEWS 金沢青年』No.20 やリーフレットが発行されたのは、まことに望ましいことでもあります。

今年の総会は2019年6月6日(木)18:00より北陸学院大学の教室で開催されました。金沢 YMCA は、2014(平成26)年3月31日付けで財団法人から一般財団法人となっています。石川県知事より認可を受け、財団法人の時よりいっそう公益目的支出計画が必要であることが強調されています。

金沢 YMCA の事業の目的は、県を通して総理府に届けてあるとおり、青少年の心身の育成が目的です。金沢 YMCA は意欲とエネルギーがあれば、何でも計画することができます。現在でもたくさんのプログラムを持っていて、主に小学生、中学生とその保護者を対象としたスポーツ教室、自然体験、募金活動、地域交流などが企画されています。

2018年度の事業にあげられたのは、1. テニス教室、2. スキー教室、3. たけのご掘り体験、4. わいわい農園、5. 生涯学習、6. 募金活動、7. 地域交流活動、8. 人材の育成、9. コンサート企画などでした。実施できなかった企画もあります。その大きな理由は、活動を実際に指導するリーダーが不足していることです。今後、活動を活性化させるためには人材育成が必要です。

今後、定款に決められている評議員会、理事会の充実を図り、会員のエネルギーを結集していかなければなりません。内向きではなく、外から期待される集団とならなければならないでしょう。そのためにも金沢 YMCA のホームページ、メールアドレス、リーフレット、NEWS の積極的な活用が重要になります。

今年はすでに、金沢青年会議所主催の「ソトゴハン」というプログラムに金沢 YMCA は協力団体として参加しました。そのような依頼に応じて、金沢 YMCA 会員、ワイズメンズクラブ会員の方々が参加してくださいました。しかも今回は、大学生が5名も参加してくれたのです。外からどのように金沢 YMCA が見られているかは大切な視点です。期待されてもいるのです。地震、台風、洪水などで現在でも電気や水で不便な生活をされている人々のことを考えます。求めがあれば応えて行く集まりでありたいと思います。これからも皆様のご協力をお願いいたします。



定期会員総会後の記念集合写真(前列中央: 神保勝己 富山 YMCA 総主事、右から二人目: 朝倉秀之 金沢 YMCA 理事長)

金沢 YMCA の豊かな働き～YMCA を起点とした繋がり～

富山 YMCA 総主事 神保 勝己

4月より、富山 YMCA の総主事として拝命され、北陸の地で働かせていただいています。生まれ育った熊本、そして私との繋がりは何もなさそうですが、神保という名字を持つことで、室町時代、守護代の神保氏が越中を分割統治したり、富山城城主であったりした神保長職など、これまで意識していなかった繋がりも意識するようになりました。

日本の YMCA では、ブランディングの再構築として、「みつかる、つながる、よくなっていく」をスローガンとして掲げ、「ポジティブネットのある豊かな社会づくり」を目指しています。YMCA の逆三角形の略章の変更はじめ、HP やチラシなど、私たちの行なっているプログラム、行動や言動などに至るまで、ガイドラインを作って進めています。つまり、人々に共感していただき、いかに YMCA ファンになっていただくかを戦略的に考えていく取り組みがなされています。

金沢 YMCA においてもブランディングの再構築として、金沢 YMCA の強みは何か、金沢 YMCA のファンはなぜ YMCA と関わっているのか、そのストーリーがそれぞれに異なります。そこに金沢 YMCA の存在意義があります。これまでの働きを振り返り、これからの金沢 YMCA の働きについて考え、多くの繋がりを活かしてコミュニティの中で必要とされる YMCA 創りを会員運動としても歴史のある金沢ワイズメンズクラブと共に進んでいくことが必要だと思えます。

私は、これまで熊本 YMCA のスタッフとして、水俣、阿蘇、広島等などの豪雨災害、スマトラ地震など被災した地域の復興支援に携わりました。泥をかぶった車や布団、家財道具、様々なものが入り乱れ、一面にころがっていました。そして、熊本では3年前に発生した地震に対し、避難所、ボランティアセンターなど17の拠点の災害支援活動を後方支援する働きを行い

ました。それぞれに異なる課題、困難な状態の中で働かせていただきました。



2006年3月スマトラ地震支援活動で現地ボランティアと共に

困難な状況におかれた人たちに寄り添うイエスの存在を知っています。私たちは、試練に遭いますが、必ずその対処も示していただけます。困難に出会う経験、そして祈りの中でその困難への対処など、私たちは微力ではありますが、様々な方々との繋がりの中で、YMCAとして、これまで175年間、形を変えながら、社会の課題解決に向けた働きを行なっています。これまで、「変えてはいけないもの、変えなければならぬもの」を見極めながら、勇気をもって、先人が改革を行なってきたからだと思えます。YMCA が持つ繋がりを大切に、その起点となるのが金沢の地で豊かな働きとなります。神様は、困難な方の傍らにいつもいらして、新たな希望の道を開かれます。希望を持って北陸の地で、社会課題に取り組む YMCA 運動を拡げていきましょう。

金沢 JC 主催“ソトゴハン～ひとり親家庭の絆プロジェクト～”参加報告

金沢 YMCA 常務理事 山内 ミハル

5月、YMCA 理事長を通して、市内の「ひとり親家庭」の支援のため、デイキャンプを計画したいので協力してほしいとの依頼が金沢青年会議所(JCI)からありました。市内には「ひとり親家庭」が4,000～5,000家族。色々な思いを抱えて仕事に、子育てに日々忙しく過ごしている親子に、日ごろできない野外活動をとおして親子のきずなを深め、さらに親同士のぎくばらんに語り合う時間を持ってほしいと計画されたもの。早速 YMCA 理事会で協力を承認、主催の JC、協力団体の YMCA と「シングルマザーの会」から代表者が出て数回打ち合わせ。名称を“ソトゴハン”とし、募集家族は30家庭、活動内容は火起こし体験、飯盒炊さん、カレーづくり、会費は無料(JC 負担)、場所は医王山スポーツセンターのアウトドアッキング村と決定。

YMCA を支援する金沢ワイズメンズクラブも全面的に奉仕、大学生5名のリーダーの参加も得られること

になり、8月半ばまでに現地視察。飯盒炊飯は遠い昔に経験した者ばかりのワイズメンのうち、近年も仕事で毎年経験のある山内をリーダーに実体験。また、ちょっとした怪我に対応できるよう救急箱を、早く食事を終えた子どもたちの遊びのための遊具やゲームをと、学生たちとも相談して細かく心配り。

8月25日(日)当日、50名を超える親子が10グループに分かれ、各グループには JC、YMCA のメンバーが2～3名リーダーとして参加。医王山スポーツセンターの会議室で開会式。JC の中田大会委員長の開会挨拶、腹話術による朝倉 YMCA 理事長の挨拶、各グループに分かれて自己紹介。そのころには駐車整理担当の学生リーダーも加わりました。

広場での火起こし体験も、炊飯場での飯盒炊飯とカレーづくりも、子どもたちはみんな本当に楽しそうでした。薪に火をつけるのに少し時間差があり、ご飯は硬めでしたが、カレーはおいしくできました、ただ、ご

飯もカレーも足りなくて、JCの方々の一部に行き渡らなかったのは申し訳ないことでした。

参加した親子の皆さんから本当に喜ばれたことは、私たちにとっても大きな喜びでした。



学生リーダーの感想

学生リーダーに選ばれて

学生会員 川原 涼介(かわはら りょうすけ)

自分にとってYMCAでの活動は初めての経験でした。ソトゴハンでは学生リーダーに選ばれ、一人親家庭の親子たちと火起こしやカレーライス作りをしました。火起こしでは子供たちの方が自分より上手に火をつけることに成功、カレー作りでは親御さんたちと協力。飯盒を使ってご



飯を炊くのに少し時間がかかったものの、とても美味しく出来上がりました。一人親家庭と聞いて緊張していたけれど、参加してくださった方たちはみんな明るく優しく、とても楽しい時を過ごすことができました。

また参加したいソトゴハン

学生会員 今井 峻輝(いまい たかき)

金沢YMCA わいわい農園体験のお手伝いをしたことがある今井です。今回、ソトゴハンにも参加させていただいて、すごく楽しいひとときを過ごしました。青年会議所の方や親御さん、子どもたちとの協力のおかげで、カレー作りなどの段取りもスムーズに進み、大きな怪我やトラブルなどもなく無事に終わりました。想像していたよりも子どもたちがすぐに心を開いてくれて、一緒に楽しく遊ぶことができました。今後の人生に役立つ、とてもいい経験になりました。今後もこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思います。



たけのこ掘り体験

金沢YMCA 理事長 朝倉 秀之

本紙No.19には、2012年4月30日(月・振休)に開催された「たけのこキャンプ」(現在の「たけのこ掘り体験」)に相当記事が掲載されています。この事業は、その後も継続して行われてきました。2019年は、会場の都合がつかず、中止になりましたので、2018年の「たけのこ掘り体験」について報告します。



2018年4月30日(月・振休)10:30~14:00、北陸学院小学校の竹林で行われました。初めの挨拶や紹介があり、祈りをもって始められました。

また、たけのこ掘りの注意事項(怪我に注意し、事故がないように)の説明がなされました。



まず、竹切り用のこぎりを使って竹を切る作業を学びました。初めて竹を切る経験をした子どもたちも「たけのこ掘り」の作業をし、たけのこ鋏の使い方を学びました。鋏を使うときは周りに気をくばらなければなりませんし、たけのこの根がどこにあるかも調べます。参加者が掘った「たけのこ」は1カ所に集め、一人あたり2本の割で分配。



「たけのこ」を掘ったあと、楽しい「たけのこ料理」を食べる時間です。たけのこご飯、竹の子煮物、たけのこ味噌汁に野菜の漬物、ミカンが添えてありました。



参加者は小学生12名、保護者の方々、YMCA会員の方で合計36名でした。

金沢犀川ワイズメンズクラブの解散と金沢 YMCA 活動

金沢 YMCA 理事 平口 哲夫

金沢犀川ワイズメンズクラブは、1993年6月12日に金沢ワイズメンズクラブを親クラブとして創立、2018年8月11日にホテル金沢にて創立25周年特別例会を開催いたしました。諸般の事情により2019年6月30日をもって解散しました。しかしながら、創立25周年記念誌CD版の作成など残務を遂行する必要がありますので、“ポスト金沢犀川ワイズメンズクラブ”委員会を同年7月1日付けで立ち上げ、2020年6月末までに残務を成し遂げることにしました。

同委員会は委員長(平口哲夫)、書記(北 肇夫)、会計(澤瀬 諭)、交流(竹中丈晴)、顧問(三谷信三)、以上5名で構成されており、このうち4名は金沢YMCAの会員を継続、その4名のうち1名は金沢クラブに移籍しました。また、同委員会は、残務整理だけで

なく、これまで金沢犀川クラブが独自に行なってきた活動を金沢YMCAに生かすことができるように諸提案を検討することもいたします。そのために、原則として毎月第四木曜日に竹中チャペル(竹中歯科医院3F)で会議を開催しています。

金沢犀川クラブで行なってきた事業のうち、グリーン・ホームページ・リーフレット(広報活動)、新桜坂緑地(W坂)清掃、使用済み切手・アルミ缶・ウエス用布製品収集(リサイクル活動)は、金沢YMCAの関連事業に生かすことができます。また金沢犀川クラブの第一例会は金沢YMCA用に換骨奪胎し、クラブ会員でない人たち、特に若い人たちが参加しやすい例会にすることも検討中です。

インフォメーション

【青団連主催「長土堀「絆」交流フェスティバル」】

10月12日(土)、長土堀青少年交流センターで開催。

【2019年度金沢YMCA役員】

代表理事:朝倉秀之(理事長)

代表理事:山内ミハル(常務理事)

理事:幸正一誠(総務)、澁谷洋太郎
平口哲夫(書記)

監事:竹中丈晴、山野 晋

評議員:井川英二、伊藤仁信、数澤輝夫、
北 肇夫、田口昭典、西 信之
八反順一郎、藤井辰男、三谷信三
宮本和幸 (以上、五十音順)

【2019年度委員会】

- わいわい農園体験:朝倉秀之、北 肇夫
- 青団連(金沢市青少年団体連絡協議会関係のユニセフ街頭募金、長土堀「絆」交流フェスティバル、グリーンキャンペーンなど):数澤輝夫、北 肇夫、幸正一誠
- 広報(ニューズレター、ホームページ、リーフレット):朝倉秀之、山内ミハル、平口哲夫
- たけのこ掘り体験:朝倉秀之、朝倉みゆき、北 肇夫
- スキー教室:朝倉秀之
- 英会話レッスン:朝倉秀之
- ソトゴハン~ひとり親家庭の絆プロジェクト~:朝倉秀之、山内ミハル、幸正一誠
- イモ煮会(金沢ワイズメンズクラブ ネット会主催):幸正一誠、山内ミハル
- 例会企画検討:北 肇夫、竹中丈晴、平口哲夫
- 使用済み切手・アルミ缶・ウエス用綿布リサイクル:平口(使用済み切手は金沢ワイズメンズクラブへ、アルミ缶・ウエス用綿布は福祉施設へ)
- 学童保育的な事業の企画検討:朝倉秀之、山内ミハル

【金沢YMCAの会員・会費】

会員:本会の目的に賛同する人は誰でも入会資

格があります。入会申込書に必要事項を記し、会費を納入すれば会員になれます。

会費:維持会員は年会費12,000円、通常会員は年会費6,000円、学生会員は年会費2,000円、少年会員(18歳未満)は年会費1,000円。

会費納入方法:下記のいずれかの方法で。

- 郵便振替 加入者名:金沢YMCA
口座番号:00790-8-56852
- 銀行の指定口座に振り込む
北國銀行 香林坊支店 104 普通預金
口座番号:428491
口座名義:一般財団法人金沢基督教青年会
理事長 朝倉秀之
- 現金で支払う

★編集後記★

本紙は、2012年7月号(No.19)発行以来、休刊状態にありましたが、このたび、ようやく発行に漕ぎつけました。この間の怠慢の責任は、ひとえに編集担当の平口にあり、深くお詫び申し上げます。今後、春夏秋冬、季節ごとに1回発行する予定です。ホームページやリーフレットと共にご活用ください。本紙もリーフレットもHPからダウンロードできます。(H・T)

YMCA NEWS 金沢青年 No.20

編集委員:朝倉秀之・山内ミハル・平口哲夫

sophiruka@yahoo.co.jp (平口)

発行者・発行日:金沢YMCA・2019年9月26日

発行所:金沢YMCA事務所

〒920-0998 金沢市里見町44-1-201

TEL/FAX 076-255-7782

asahide0927@gmail.com (朝倉)

